



ウソで固めたJ R総連9・3集会 見え透いた裁判引き延ばし作戦！

9月5日付けの『J R総連通信』No.1768およびJ R貨物労組『組織部報』No.4によると、J R総連は「J R総連に結集する全国の仲間と津崎さんと共に東海労裁判勝利を勝ちとる9・3集会」を大阪市内で開催したと報じました。集会では、J R総連近畿地協津崎議長が決意表明したと記載されています。

ところで、津崎裁判の提訴が6月3日、答弁書が届いたのは2ヶ月以上も経過した8月13日、しかも、9月3日の第1回口頭弁論には出廷できない旨を一方的に通告してきたのです。当初開廷されるはずであった9月3日に、津崎氏が集会に参加したところをみると、弁論期日延期は弁護士の都合であることが伺えますが、あまりにも裁判をバカにしているとしか考えられません。

それもそのはず、9月12日には統制委員会の答申に基づくJ R総連臨時大会を控え、J R東海労への制裁（処分）が発表されるため、どうしても裁判の期日を引き延ばしする必要があったとしか考えられません。つまり、津崎氏のウソ・デマが公になる前に、J R東海労を処分してしまえ、ということです。この構図は、斉藤兵庫県知事の百条委員会でも話題になっている「公益通報」をめぐる問題と同じだといえます。

『J R総連通信』には、「謝罪・撤回されている文書を意図的に宣伝活用して、J R総連を攻撃している」と記載されています。近畿地協第1回常任委員会（12月13日18時）での謝罪と撤回の報告が新幹線関西地本笹田委員長にLINEでされていますが、「謝罪・撤回されている文書」らしきものの存在は不明です。

また、「仲間を訴えるなどあり得ない」などとも記載されていますが、当のJ R貨物労組では、関東地本の元書記長が本部を提訴したことについては、どう説明するのでしょうか。

ウソで始まった文書、ウソで組織化、ウソを基にした統制委員会、ウソを広げるための9・3集会、一体ウソはどこまで続くのか。ウソというレールを走る列車に乗せられた組合員が一番不幸になるのです。